

江東区議会議員

鈴木あやこ

働く世代の
ワーク・ライフ・バランスを
応援します！

鈴木あやこプロフィール

1975年2月18日生まれ。江東区猿江・潮見を経て豊洲在住
 成城大学文学部卒。早稲田大学大学院修了。
 NTTドコモ出身。2011年初当選、2015年、2019年再選。3期目。
 区議会文教委員長。日本最大の政策コンテスト「マニフェスト大賞」3回
 受賞。超高層マンション副理事長を経験。対話型の区政報告座談会
 「あやこcafe」を毎月開催。



鈴木あやこホームページ

<http://www.suzukiayako.com>

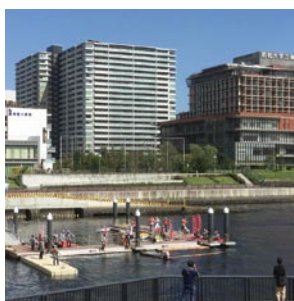
鈴木あやこ で検索



鈴木あやこの活動報告（地域活動編）

豊洲水彩まつり (9月28日)

豊洲の水辺の秋の風物詩「水彩まつり2019」が豊洲・東電堀にて開催。今回も豊洲商友会の皆さんと、豊洲はちみつエールやカクテルなどのドリンクの販売をお手伝いしました。キャナルバーや町内対抗ボートレース、水陸両用バス・夜は映画の上演会などで盛り上がりました。豊洲市場やオリンピックなどますます賑わう豊洲の水辺を地域の皆さんと盛り上げていきます。



静岡市視察 (10月15日～16日)

東海地方の若手市議会議員の皆さんと静岡市を視察。地元企業と連携したエネルギーの地産地消、全国トップクラスのSDGsの取組、経済評論家の森永康平氏による金融教育の必要性の講演など充実した内容でした。

学んだことを区議会の質問に役立てていきます。



毎月恒例！鈴木あやこ区政報告座談会「あやこcafé」開催案内

江東区のまちづくりについて、毎月みなさまとざっくばらんに対話する区政報告座談会「あやこcafé」。9月は今話題のSDGsのワークショップを行いました。次回は議会報告が中心です。お気軽にお越しください！

- 第104回：2019年11月29日（月）19：00～20：30
江東区文化センター第1会議室（東陽4-11-3）※いつもと場所が違いますのでご注意ください。
- 第105回：2019年12月16日（月）19：00～20：30
豊洲文化センター第3研修室（豊洲2-2-18 豊洲シビックセンター8階）



江東区議会令和元年 第3回定例会開催報告・第3回定例会開催

江東区議会令和元年第2回定例会は、第3回定例会は9月20日～10月23日まで開催され、決算審査特別委員会にて質問を行いました。第4回定例会は、11月27日～12月17日の予定です。議会傍聴やインターネット中継もございますので、ぜひご注目ください。



民政クラブとして山崎孝明区長に予算要望を提出（10月3日）

鈴木あやこの議会質問（2018年9月30日）

(1) オリンピック・パラリンピック開催時の自然災害対策について

【質問】

2020東京大会期間中に大型台風などが発生した場合、地域住民に加えて、会場周辺の観客などの避難誘導や一次避難の課題なども発生する。台風などで交通機関が止まり、帰宅困難になった国内・海外の観客を地域の拠点避難所で受け入れる場合、運営に地域住民の力も必要になってくるのが懸念される。

①自然災害への対処については、東京都が公表している「東京2020大会の安全・安心の確保のための対処要領（第2版）」によると、大会開催時に発生する大規模災害や大型台風・ゲリラ豪雨などの事案への対応は、都が設置する都市オペレーションセンター（COC）や都の災害対策本部で連携して行うことになっているが、具体的にはどのような対応になるのか。

②地域住民の負担などはどのようなものが考えられるのか、具体的な説明や要請は今後どのような形で行っていくのか伺う。

【答弁】

①現在は、取りまとめられた対処要領を用いて、東京都と大会組織委員会、会場が立地する自治体、東京消防庁などが図上訓練で検証し、次の段階の対処要領にまとめるといった作業を続けており、その中で具体的な内容については検討中。

②基本的な考え方としては、大会会場に収容される観客については、人数的に地域の拠点避難所とは分けて考える必要があり、会場となる施設が耐震化された安全なものであるため、災害発生時は会場施設を活用することを中心とした対処方針となっている。現時点で、地域住民の通常の防災対策への負担は、できる限り少なくなるよう検討を進めている。このため、住民への説明等までは予定されていないが、対応が必要な状況となった場合は、きちんとした説明がなされるよう都に働きかける。

(2) オリンピック・パラリンピック開催時のテロ対策について

【質問】

大会開催時にテロが発生したときは、地域住民、観客ともに危機にさらされることになるため、大会会場周辺の住民からも不安の声があがっており、具体的な対応についての啓発、対策・住民周知が課題である。

災害時同様、大会時の災害対策・治安対策などは区が東京都の都市オペレーションセンターや都の災害対策本部と連携して行うことになるが、①具体的にはどのように対応することになっているのか、②今後地域住民とはどのように伝達・連携していくのか。

【答弁】

①大会期間中は、会場内・ラストマイルについても組織委員会や都のCOC(都市オペレーションセンター)が詰めており、都庁内にあるCOCともに情報共有できる体制をとっており、会場所在の区市や警察・消防などの各機関との連絡体制を構築し、危機事象の発生に備えている。テロの発生、またはテロが疑われるような事象が発生し、災害対策本部が設置されるような場合は、情報収集や伝達を行い、区も必要に応じて対策本部を設置するなどの対応を行う。

②住民への伝達・連携について

区では、地域住民の方だけでなく、来訪者にも異変を伝えるため、必要に応じて自然災害と同様に、防災行政無線や緊急速報メールなど、様々な情報伝達手段で緊急情報を伝える。テロから身を守る方法として、「異変に気づいたら110番・119番」「落ち着いて屋内避難・情報収集」、「要配慮者へのサポート、屋外による人に危険を知らせ、建物内への受け入れ協力」などがある。今後も組織委員会、東京都と連携して、訓練をはじめ情報等共有し、地元区として地域も含めた治安対策を検討していく。

(3) AIやVRの防災への活用について

【質問】

昨年と今年の8月の2回に渡り、豊洲西小学校で住民参加によるAI防災訓練が実施された。この訓練は、住民のSNS投稿をもとに、AIが必要な情報を収集・分析することで、マンションの自治会や災害協力隊が地域の被害状況を把握し、危機対応体制を構築するというものだった。また、VR（バーチャルリアリティ）を活用した消火体験などもあり、好評だった。防災にAIやVRなどの先進技術を導入すべきだと考えるが、区の見解は？

【答弁】

豊洲西小で行われたAI防災訓練は、興味深い訓練だと捉えている。技術的に改良の余地もあり、すぐに導入することは難しいが、新たなシステムやサービスの動向、他の自治体の活用状況も合わせて今後とも注視していく。VRを活用した訓練については、南陽小学校などの区の地域訓練でも企業と協力して導入した経緯があり、今後も実施予定。



昨年11月に開催された東京都・江東区国民保護（大規模テロ対応）訓練

鈴木あやこの政策

働く世代のワーク・ライフ・バランスを応援します！

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催地であり、湾岸エリアを中心にめざましい発展をとげる52万人都市・江東区。こどもたちやお年寄りが安心して暮らしていくためにも、現役世代が働きながら地域社会に関わりをもてるまちづくりを目指します！

〈政策1〉子どもたちの未来のために

- ①仕事と子育ての両立 ②待機児童の解消 ③子育て支援の充実 ④児童虐待のない社会へ

〈政策2〉お年寄りの元気と安心のために

- ①高齢者を地域で見守るまちづくり ②元気な高齢者の活躍支援

〈政策3〉2020年東京オリンピック・パラリンピックの先を見据えた新しいまちづくり

- ①地下鉄8号線(豊洲～住吉間)やコミュニティバスの充実 ②江東湾岸エリアの持続的な発展と豊洲市場の賑わい推進

〈政策4〉ICTを活用した区民サービスの向上

- ①子育て・教育・医療・防災分野にICTを積極的に活用 ②AI(人工知能)やRPA(業務の自動化)を活用した行政サービスの効率化

